

福祉体験学習メニュー表 2024



① ボランティア塗り絵をしてみよう	3
② バリアフリー・ユニバーサルデザインってなんだろう??	4
③ 車いすってどうやって使うの??どうやってサポートするの??	5
④ 高齢者の立場を体験してみよう	6
⑤ 見えない世界を体験しよう	7
⑥ 点字を体験しよう	8
⑦ 盲導犬を知ろう	9
⑧ 手話で心をつなげよう	10
⑨ 障がい者スポーツを体験しよう	11

① ボランティア塗り絵をしてみよう

私たちが生活しているまちの中には、たくさんの方が生活しています。

私たちひとりひとりが、自分たちのまちをつくる主人公！

「だるまちゃん広場」を中心としてさまざまな人が出てくる塗り絵の中から、自分に出来る事はなんだろう??と考えることを目的としています。

自分たちの住んでいるまちの中で、だれかの役に立つこと、だれかに支えられていること、助け合う事…それがボランティア。塗り絵をしながら、自分たちになにが出来かを考えていきます。

ボランティア塗り絵	必要時間	体験内容
	一人あたりの体験時間 45分	※ぬり絵を通して、まちの中での困っている人を見つける
	可能人数	
	40名	※困っている人に自分は何が出来かな?と考える
	講師・ボランティア	※自分の住むまちにはいろんな人が住んでいることを理解する ※自分の住むまちがどんな街になると、みんなが住みやすいまちになるのかを考える
	福祉施設・社会福祉協議会職員等(1~2名程度)	
	体験用具・準備物	備考
・色鉛筆 ・ボランティア塗り絵人数分	※対象 児童生徒	

※困っている人に気配りする…「きづく」ことから始めよう。

※幸せな気持ちになる。みんながハッピーになるボランティア。

② バリアフリー・ユニバーサルデザインってなんだろう？

さまざまな人が暮らすまちの中には、ある人は使いやすいものでも、別の人には使いにくかったりすることがあります。こうした問題を解決するものとして「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」があります。身近なバリアフリーやユニバーサルデザインを知ることで、自分の住んでいるまちを違う視点から考えることができます。

ユニバーサルデザイン・バリアフリー	必要時間	体験内容
	一人あたりの体験時間 30 分	※バリアフリーとユニバーサルデザインの違い
	可能人数	※自分の住むまちにはどんなユニバーサルデザインがあるかな。
	40 名	※いろいろな福祉情報を集めて福祉マップを作ろう。
	講師・ボランティア	※新しいユニバーサルデザインを考えてみよう
	福祉用具業者（1～2 名程度）	
体験用具・準備物	備考	
	※対象 児童生徒	



③車いすはどうやって使うの？どうやってサポートするの？

まちの中で見かける車いす。安全な使い方や操作方法を学びます。

車 い す 体 験	必要時間	体験内容
	一人あたりの体験時間20分 合計1時間30分～2時間	※車いすの使用方法和介助 方法の説明
	可能人数	※車いすの体験内容
	40名	・乗り降り
	講師・ボランティア	・段差
	福祉施設職員等 2～3名 ※屋外へ出る場合は、安全確保のため必要人員 の確保が必要（要相談）	・介助
	福祉施設職員等 2～3名 ※屋外へ出る場合は、安全確保のため必要人員 の確保が必要（要相談）	・坂道
体験用具・準備物	備考	
車いす10台（貸出し可能） ※段差やスロープがない場合のみ 踏切板3台・マット6枚	※対象 児童生徒	



④ 高齢者の立場を体験してみよう

高齢者疑似体験用具を装着し、体の動きにくさなどを感じることが出来ます。

高齢者の生活するうえでの大変さを知ることができます。

高齢者疑似体験	必要時間	体験内容
	一人あたりの体験時間 30分 合計 1時間 30分～2時間	※高齢者についてのお話 ※高齢者疑似体験用具の装着
	可能人数	※装着した上での体験内容
	40名	・立ち上がる ・落とした物をとる ・新聞紙を読む、色の違いの見え方 ・財布からお金を取り出す ・階段の上り下りなど
	講師・ボランティア	
	福祉施設職員等（数名）	
体験用具・準備物	備考	
高齢者疑似体験 12セット（貸出し可能）、 新聞紙、折り紙、硬貨など	※対象 児童生徒	



⑤ 見えない世界を体験しよう

「見えない世界」ってどんな世界なんだろう…。不便なことはないのかな？目が見えないという感覚を自分で体験できます。アイマスクを使っての体験や、実際に視覚に障害をお持ちの方のお話を聞くことで、視覚障害者への理解を深めます。

見えない世界を体験しよう！	必要時間	体験内容
	1人あたりの体験時間 30分 合計 1時間 30分～2時間	※視覚障害者の日常生活のお話
	可能人数	※アイマスク体験内容
	60名	・硬貨の選別
	講師・ボランティア	・やかんからコップに水を入れる
	視覚障害者講師 1名 ガイドヘルプボランティア 4名	・水を飲んでみる ・一人で歩く ※ガイドヘルプのしかたの説明 ※ガイドヘルプ体験
体験用具・準備物	備考	
アイマスク（貸出し可能） ハンカチ 体験に使用する道具	※協力団体 ガイドヘルプボランティアグループ「マイウェイ」	



⑥ 点字を体験しよう

視覚に障害を持つ方のコミュニケーションツールが「点字」です。まちの中でも目にすることもあるかと思います。点字を体験し、手の感覚で文字を感じる体験をすることができます。

点字体験しよう	必要時間	体験内容
	1 時間	※視覚障害者の日常生活についてのお話
	可能人数	※目の見えないことについての説明
	40 名	※点字の仕組みの説明
	講師・ボランティア	※自分の名前を点字器で打つ
	視覚障害者講師 1 名 点訳ボランティア 3 名	※単文を点字器で打つ ※自分で打った点字を講師に読んでもらう ※まちの中に、点字表記があるか探してみる
体験用具・準備物	備考	
点字器（40個）、指定の点字用紙	※協力団体 福井県点訳むつみ会越前支部 ※アイマスク体験を事前に行うとより効果的です。	



⑦ 盲導犬を知ろう

視覚障害者の目となりお手伝いする犬を「盲導犬」といいます。

「盲導犬」はどんなお仕事をするのでしょうか？

盲導犬と一緒に生活している視覚障害者より話を聞くこともできます。

盲導犬を知ろう！	必要時間	体験内容
	45分～1時間程度	※視覚障害当事者の生活と、 盲導犬のお仕事について ※盲導犬に会った時の注意 事項
	可能人数	
	40名	
	講師・ボランティア	
	当事者ボランティア	
	体験用具・準備物	備考
	盲導犬と一緒に生活する当 事者の方の派遣を行います。	



⑧ 手話で心をつなげよう

聴覚障害者のコミュニケーションツールの一つが手話です。近年では手話がダンスの振付に入る等、馴染みやすいコミュニケーションツールにもなってきました。言葉を使わずに、相手に気持ちを伝えるということ、体験を通して感じることができます。

手話で心をつなげよう	必要時間	
	1 時間程	※聴覚障害者の日常生活のお話
	可能人数	
	40 名	※聴覚障害者のコミュニケーションの方法
	講師・ボランティア	
	聴覚障害者講師 1 名 手話通訳ボランティア 1 名	※日常生活でよく使う手話を覚える ・こんにちは ・ありがとう ・ごめんなさい など
体験用具・準備物	備考	
手話プリント	※協力団体 手話サークル「ホトトギス」 パラダイス手話の会	



⑨ 障がい者スポーツを体験しよう

福井国体が開催されたことで、「障がい者スポーツ」へも関心が高まりました。

障害を持ちながらも、スポーツを楽しむことが出来るように工夫されたスポーツです。

障 ス ポ ー ッ て 知 っ て る ？	必要時間	体験内容
	45分～1 時間程度	※障がい者スポーツを知る (説明) ※障がい者スポーツを体験 する。
	可能人数	
	40名	
	講師・ボランティア	
	障がい者スポーツ担当 1～2名	備考
	体験用具・準備物	
	障がい者スポーツの用品	